

トップインタビュー

鳥取市立病院 病院長

山下 裕 氏

注目の医師

独立行政法人国立病院機構

米子医療センター 副院長

杉谷 篤 氏

輝き続ける女性医師

武信眼科 院長

鳥取県医師会理事 (女性医師対策 主担当)

武信 順子 氏

鳥取の病院から

医療法人十字会

野島病院

鳥取の研修医たち

鳥取大学医学部附属病院

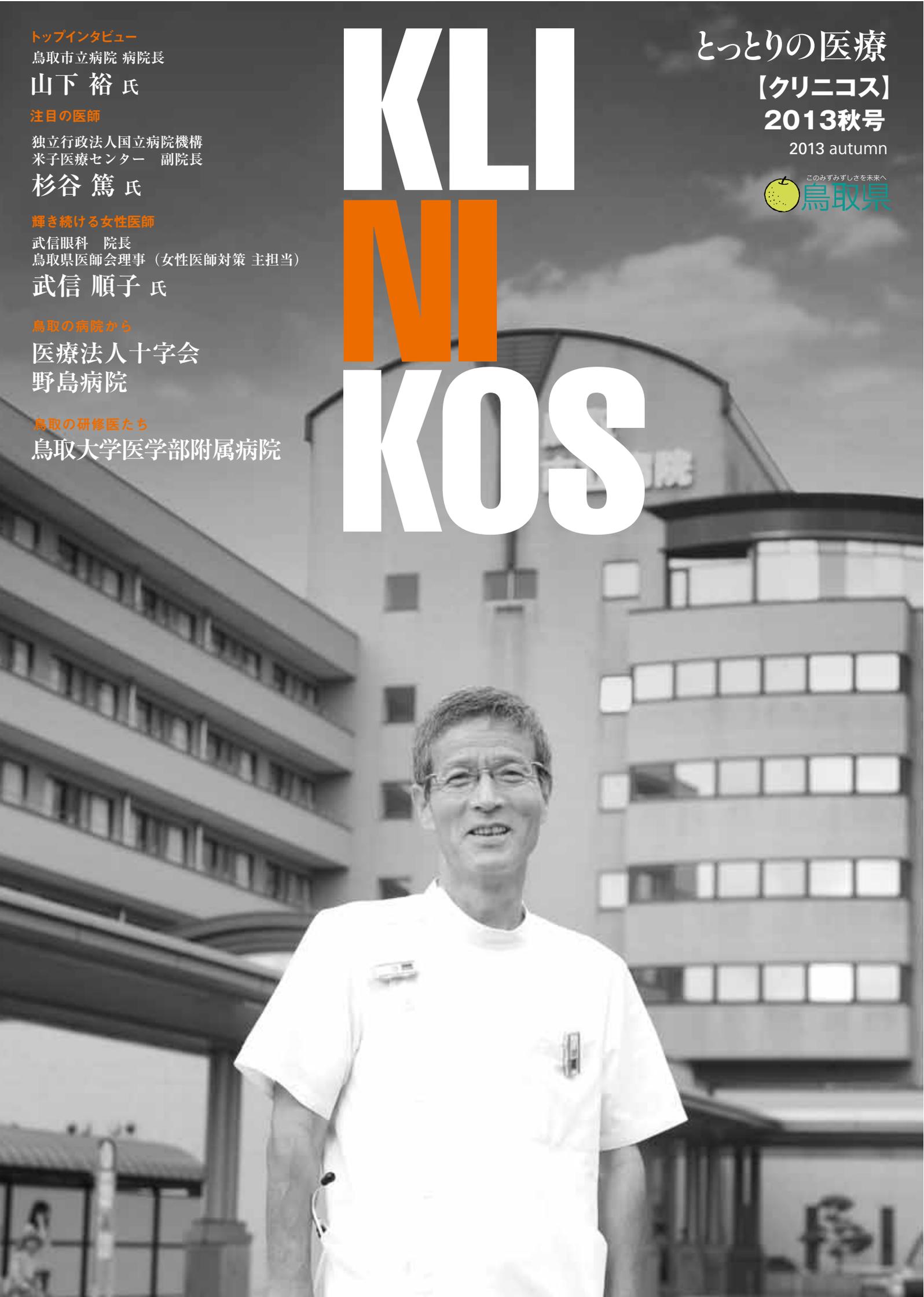
KLI MI KOS

とっどりの医療

【クリニコス】

2013秋号

2013 autumn





浦富（うらどめ）海岸

鳥取県岩美郡岩美町にある約15キロメートルにわたるリアス式海岸。

KLI NI KOS

とつとりの医療
【クリニコス】
2013秋号



医療の神様
「大國主命」と
神話の地鳥取県

小さな「ありがとう」のために、大きな夢をのせて…。

鳥取県が舞台と言われている神話「因幡の白兔」で、傷ついた兔を救った大國主命は、医療の神様とされています。

『KLINIKOS（クリニコス）——とつとりの医療』は、鳥取県で展開されている医療の魅力を、

現役医師の皆さんの生の声で伝える広報誌です。

県内の医療機関ではどのような医師が活躍しているのか、

どのような研修、チャレンジができるのか、素晴らしい先生方の取り組みや

想いを、特に若い医師や医学生に発信したいと考えて制作しました。

ギリシャ語の「klinikos」は英語／clinicの語源ともなった言葉で、

患者に対する医療行為を意味し、米語辞書の代名詞的存在である

ウェブスター辞典では、「臨床講義」や「臨床講義室」を

さす言葉として紹介されています。

この冊子に紹介されている先生方や医療機関の取り組みに

興味を持たれた方は、ぜひ現場を見学してみてください。

願わくば、この冊子が鳥取県で研修、勤務いただくきっかけになれば幸いです。

鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課



鳥取砂丘

日本海海岸に広がる広大な砂礫地で、代表的な海岸砂丘。日本三大砂丘の1つで南北2.4km、東西16kmに広がる日本最大の観光砂丘。

ACCESS

鳥取県へのアクセス



CONTENTS

Top Interview

トップインタビュー

鳥取市立病院 病院長

山下裕氏

この病院にきたらなんとかしてくる
そう市民に思われる病院でありたい

Doctor in focus

注目の医師

独立行政法人国立病院機構 米子医療センター 副院長

杉谷篤氏

葛藤はある。だが、執刀医に迷いは許されない。
臓器移植医のプロとして――

Close Up Women's

輝き続ける女性医師

武信順子氏

武信眼科 鳥取県医師会理事(女性医師対策 主担当)

みんなががって、みんないい

女性医師としての個性を生かして貢献したい

Our Style

鳥取の病院から

野島病院

医療法人 十字会

医療、看護、介護をトータルに提供し、地域包括ケアを推進

Succeed

鳥取の研修医たち

鳥取大学医学部附属病院

鳥取という土地や人から感じられる、柔らかなさ、もいんですよ



Top Interview

トップインタビュー

鳥取市立病院 病院長

山下裕氏

Yutaka Yamashita

病院長になるときは清く
責任を取る覚悟をしました

医療の進化・高度化は、医師に求められる技術の高度化でもあり、それは昔と比べて医師にとってリスクが増えたことでもある。にも関わらず、現代はリスクを容認できない時代であり、医師は人々から間違いを絶対に犯すことのない神であることを求められる。しかし、医師は神ではない。最高の医療環境のなかで全力を尽くしても、思いもよらない負の結果をもたらすこともある。

「そうなったとき、病院長として全ての責任の所在は僕にあるということ。スタッフたちの将来ということは、ある意味では僕の責任。病院長になるときは、清く責任をとる覚悟だけをしました」

清く責任を取る覚悟がある――。

それはなかなか言える言葉ではない。そんな鳥取市立病院病院長の山下裕氏に、医師をはじめとする病院スタッフたちからの信頼は厚い。

この病院にきたら なんとかしてくれる そう市民に思われる 病院でありたい

山下氏に医師をめざした理由を聞くと、「身内に医者はいないし、憧れる医師像というものもなかった。ただ、医者になったら、一生食べることになることはないと思っただけです」。そういつて大きく笑う。そんな大らかな人柄も山下氏の魅力だ。

大学時代は野球に夢中だった。守備位置はサード。足が速く、打順は一番。その速さは、20年前のマスターズ陸上40歳以上の部の100m走で、鳥取県で一番になったほど。当時は100mを11秒台で走る瞬足だった。

「学生時代は野球に夢中で、あまり勉強しなかったんです(笑)。だから内科は無理。医師イコール外科のイメージが強かったこともあり、外科医になろうと決めました。でも僕は不器用だったから外科をやっていく自信がなかった。さてどうしよう」と。この相反する思いを解決したのは、麻酔科への入局だった。「麻酔科な

ら外科の仕事を間近で見られる。それで外科ができるかどうか判断しようと思っただけです。一年後、僕にもできるかなと思いついて入局しました。でも、実際見るのとやるのとでは大違いだね(笑)」

山下氏は麻酔科での1年間で全身管理を叩き込まれた。ICUハンドブックは隅々まで熟読した。それが外科の道に進んだとき、大きく役立った。

「手術中には色んなことが起こ

るわけ。そうすると、麻酔科で学んだ全身管理が役にたつて、外科の中で重宝されたんです。人工呼吸器の使い方なんか先輩よりも遥かに慣れていましたね」

お前は何ていう
生き方をしてきたんだ

山下氏が鳥取市立病院に初めて来たのが昭和54年。3年勤務した後、2病院を経て昭和60年に、再び



鳥取市立病院に赴任する。ここで山下氏は外科医としての実力を大きく伸ばした。

「この病院に来て、特定の臓器に拘ることなく首から下まで広い範囲の外科ができた。そして徹底的に外科医としての技術を追求していったんです」

山下氏がこだわり続けてきたのは、いかに外科医であり得るかだ。

そのために正確で確実、そして迅速な手術を追求し、そこに全てのエネルギーを注いできた。ありとあらゆる術式を勉強し、シミュレーションを何度も繰り返し返す。手術場に立てば、すでに目の前の手術は頭の中で終わっている状態で常に臨んだ。しかし、そのなかで山下氏が置き去りにしたものがあつた。患者さんの心の問題だ。

「僕は医学書や手術の本しか読んでこなかった。医師は技術で結果を出せば、それでいいと思っていた。でも、そうではない。心の問題の大切さに気がついたのは10年程前なんです。そ

れからは色々な本をがむしゃらに読んで、人間の心というものを真剣に考えるようになった。論語や聖書も読む。しかし、それが自分の人間性に出てくるのかというと、そうではない。ひたすら自身に内向してくるんです。『お前は何ていう生き方をしてきたんだ』と。僕の歳では気づくのが遅かった。若い医師たちには色々な本を読んで人間力を磨いて欲しい」

山下氏がめざしているのは、強い医師をつくること。強い医師とは、市民からの医療ニーズに応えることができる医師であり、それは救急医療の対応力に現れる。救急現場には、多様な症状の患者さんが運ばれるため、すべてを受け入れ、最適な治療に結びつけるためには、医師一人ひとりの総合診療力が不可欠だ。鳥取市立病院は、全ての救急を受け入れることをモットーとし、山下氏自身も週に3回、午後の救急を担当している。「救急は全部受けますよ、と言っている僕が救急現場



に入っている。そうすると、みんな断れないでしょ(笑)。ここは決して大都市の救急医療に負けるとは思っていません。めざしているのは、この病院にきたらなんとかしてくれと市民に思われる病院なんです」

うちの医局は本当に誇れる医局なんです

鳥取市立病院は市民からの医療ニーズに応えるため、さまざまな機

能を充実させてきた。多くの疾病を包括的に診る総合診療科の開設や、地域医療総合支援センター、地域支援病棟の設置による、疾病予防から患者さんの生活の質の向上をめざした包括的な治療を提供できる体制を整えた。地域がん診療連携拠点病院への認定や、脊椎脊髄センター、消化器センターを立ち上げるなど専門的治療にも力を入れている。そして、これらの病院機能を最大限に発揮するためには、強



固なチーム医療が欠かせない。

「鳥取市立病院のいいところは、一つの部屋に、各科の医師や研修医が混ざって机を構える医局があること。だから、誰とはなしに電子カルテの周りに集まって、いつの間にかカンファレンスが始まるんです。教育に関

してもチーム医療に関してもうまく

医局が機能している。うちの医局は本当に誇れますね」

ここまで来るのに危機はたくさんあった。山下氏が鳥取市立病院に来て約30年。最初の頃は、チーム医療という概念もなく、各科の医師は

個人医者だった。平成7年に新病

院が開院し、患者さんが多く訪れるようになる。と医療スタッフの意識も上がった。しかし、新臨床研修医制度が始まり、60人いた医師が40人に減った。一時期は研修医がゼロというときもあったが、現在は研修医が5名、来年は10名近くになる予定だ。医師数も現在は60名となった。

「多くの医学生が面接にきました。『ここで総合診療力を勉強して、さらに専門も修得したい』と言って

くれる。うちの病院が医学生たちにそういった評価を得ているのかなと思うと嬉しいですね」

「心の問題」を置き去りにしていたと言った山下氏。しかし、人を想う心、相手を思いやる心がなければ、外科医としての徹底的な研鑽も、清く責任を取ることも、強い医師をつくることもできないはずだ。山下氏には人を想う、大きくて温かい心がずっと前から宿っていたに違いない。

Profile

鳥取市立病院 病院長

山下 裕 やました・ゆたか

- 1976年 岡山大学医学部 卒業
岡山大学医学部附属病院麻酔科 入局
- 1977年 岡山大学医学部附属病院外科 入局
公立学校共済組合中国中央病院
- 1979年 鳥取市立病院
- 1982年 高松宮武病院
- 1985年 倉敷前田病院
- 1985年 鳥取市立病院
- 1997年 鳥取市立病院 外科部長
- 2000年 鳥取市立病院 副院長
- 2012年 鳥取市立病院 病院長

Doctor in focus
注目の医師！

独立行政法人国立病院機構 米子医療センター 副院長

杉谷篤氏

患者さんを救うための臓器移植手術の対極には、
脳死ドナーから臓器を摘出する手術がある。

一方では患者さんの命を救い、一方では固定死に向けた手術が行われる。
この両者を切り離して臓器移植を考えることはできない。

葛藤はある。だが、執刀医に迷いは許されない。
臓器移植医のプロとして――。



父とキャッチボールがしたい。
脚を元にもどしたい。

2 011年4月14日。歴史的な日である。

この日、午前3時20分。国内で初めて、脳死と判定された15歳未満の少年からの臓臓と腎臓の同時移植手術が終了した。手術時間は11時間30分。患者さんは糖尿病の合併症による動脈硬化があり、予想以上に血管の剥離、結合に時間がかかってしまった。手術後、執刀医は患者さんの家族に手術時間が長くなってしまったことを謝った。まだまだ自分は未熟なのだ。頭を下げる執刀医を患者さんの家族は感謝の涙で迎えてくれた。

執刀したのは、当時、藤田保健衛生大学病院の教授だった杉谷篤氏。2013年4月から『米子医療センター』の副院長を務める臓器移植医療の第一人者である。

杉谷氏が医師をめざした原点は父親にある。「僕の父は15歳のときに膝の打撲がもとで関節炎になり、そこが

化膿して片脚を切断したんですね。僕が生まれた時から父は片脚が義足だったんです」。子供の頃、周りの友人たちが父親とキャッチボールをしている姿を見て羨ましく思った。父とキャッチボールがしたい。いつか父の脚を元に戻すんだ。その思いが杉谷氏を医師の道に導いていった。杉谷氏は勉強に励み、二浪の末、九州大学医学部に合格。医師への道がスタートした。

せめて体の一部だけでも
他の人の中で生かしたい

杉

谷氏は大学卒業後、九州大学
学の第一外科に入局。研修1

年目に、アメリカ帰りで日系三世の宮本医師の手術を見学した。「無駄がなく精確。まるで手品でした」。憧れた。アメリカで勉強したいと思った。そして1988年、思いが実現する。海を渡りシカゴのイリノイ大学に留学。アメリカの医師免許を取得した後、今度は、肝・小腸移植の最前線で活躍する同門で先輩

の藤堂医師がいるピッツバーグ大学に研鑽の場を移す。そこで杉谷氏は奇跡を目の当たりにする。末期肝不全で瀕死の患者さんが移植手術を受け、元気になる。全身が震えるほど感動した。ここから臓器移植医としての本格的な修行が始まる。「一日中は基礎実験、夜はドナー手術と肝移植手術の臨床。一切の妥協を許さない藤堂先生の目。休む暇はありませんでした。ドナー手術の行き帰りに飛行機のなかで眠れることだけが本当に嬉しくて」

1994年には、アメリカ移植外



米子医療センター

地域がん診療拠点病院や、鳥取県唯一の献腎移植施設として、がん・腎医療における専門性の高い治療を実施。さらに、非血縁者間骨髄採取・移植施設やエイズ治療拠点病院、地域医療支援病院として、鳥取県西部地域の医療を支えている。平成26年5月には新病院が完成し、鳥取県西部圏域で初の緩和ケア病棟が開設する。



科学会の会長を務めたコーリー医師がピッツバーグ大学に赴任。杉谷氏はコーリー医師から脾臓・肝臓移植のノウハウを徹底的に学んでいった。コーリー医師の細かな一針も見逃さないよう、瞬きも惜しむほど目を見開き続け、内眼筋が痙攣したこともあった。こうして杉谷氏は超一流の医師たちのもとで研鑽しながら、やがて日本の臓器移植医療の第一人者となる。臓器移植医には心技体、その全てに揺るがない自信が求められる。あるとき杉谷氏は自分の子と同じ5歳になる脳死ドナーの臓器摘出を担当した。「唇はピンクで、体はあたたかい。開腹し、冷たい灌流液を流して臓器

を摘出する。唇が白くなり体が冷たくなる。もし、自分の子供だったらという葛藤はある。でも、私たちはプロなんです。法が認め、自分の技術が求められているなら、迷いがあってはいけません。不幸にして脳死になったその子のために、せめて体の一部だけでも他の人の中で生かしてあげなければ」

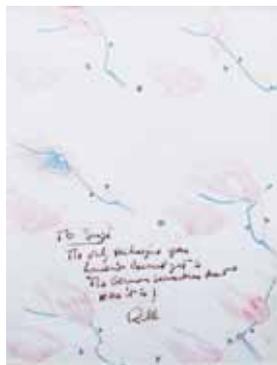
尊敬し、憧れる医師に。それが上に立つ者の仕事

杉

谷氏の原動力となったのは、尊敬し、憧れる医師がいたことだった。「教える立場の医師は、若い医師たちにモチベーションを与えられる医師でなければならない。それが上に立つ者の仕事であると思うんです。僕は宮本先生が鼻をかむ時のティッシュペーパーの取り方にも憧れた。憧れ、めざす目標となる医師の存在が、若い医師たちの力強い原動力となるんです」

杉谷氏のデスクには、帰国時にコーリー医師から送られた額が置かれて

いた。額には糸結びの手順のイラストに、「スギ！おまえが一つだけまだ習得していない手技だ。と英語で書かれている。杉谷氏が習得し、自身で「ゴルゴ13」と名付けた13種の糸結び。それ以上は必要ないと思い、練習を諦めていた糸結びだった。さらなる上をめざせ。おまえならできる。そんな温かい激励が込められている。



残念ながらコーリー医師は、2001年に交通事故で亡くなった。父の脚をつなぎたい。その夢は叶うことなく、杉谷氏の父もこの世を去った。だが、いつしか杉谷氏の後進の医師たちが、杉谷氏の夢を別の形で実現するかもしれない。めざす目標となる憧れる医師へ。杉谷氏は、さらなる高みをめざして研鑽を続ける。

Profile



独立行政法人 国立病院機構 米子医療センター 副院長

杉谷 篤 すぎたに・あつし

- | | | | |
|-------|----------------------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1983年 | 九州大学医学部 卒業
佐賀医科大学附属病院 外科 医員 (研修医) | 1999年 | 九州大学大学院医学系研究科
臨床・腫瘍外科学分野 助手 |
| 1984年 | 九州大学医学部附属病院第一外科 医員 (研修医) | | 九州大学医学部附属病院 腎疾患治療部 助手 |
| 1985年 | 大阪回生病院 外科 医員 | | 九州大学病院 腎疾患治療部 講師 |
| 1988年 | 米国イリノイ大学医学部リサーチアソシエイト 外科 | 2006年 | 九州大学病院 腎疾患治療部 助教授 |
| 1991年 | 米国ピッツバーグ大学医学部リサーチアソシエイト 外科 | 2007年 | 九州大学病院 腎疾患治療部 准教授 |
| 1994年 | 米国ピッツバーグ大学病院クリニカルフェロー 外科 | 2008年 | 藤田保健衛生大学 臓器移植再生医学講座 教授 |
| 1997年 | 九州大学医学部附属病院 外科学第一講座 助手
九州大学医学部 外科学第一講座 助手 | 2012年 | 米子医療センター 外科・副院長 |

Close Up Women's
vol.04

輝 き 続 け る
女 性 医 師

みんなちがって、みんないい
女性医師としての
個性を生かして貢献したい

武信眼科 院長
鳥取県医師会理事（女性医師対策 主担当）

武信 順子氏

病院入口に咲いた美しい花々が微風に揺れていた。気が滅入りがちな患者さんに、病気を一瞬でも忘れてもらいたい。そんな院長の細やかな心配りが患者さんを迎えてくれる。

ここは鳥取県東伯郡にある武信眼科。院長の武信順子氏は、眼科医として故郷に貢献しながら、女性医師がずっと安心して働ける鳥取県をめざして、女性医師支援にも取り組んでいる。





女性医師3割の時代を迎えて

武信順子氏の全身からは、会う人を微笑ませる優しさが溢れていた。物腰は柔らかく、太極拳を嗜んでいるからか、身のこなしも美しい。しかし、その実力は太極拳2段、さらに指導員と審判員の資格を持つほど。柔らかさのなかに芯のある強さと包容力がにじみ出ているの

はそのためだろうか。

待合室に入って直ぐ右手の壁に、『ヒポクラテスの誓』を描いた版画が掛けられていた。冒頭には、医学に携わることを許されたからには全生涯を人道のために捧げる、とある。医師にとって「当たり前のこと」と思われがちだが、女性医師にとってこれを実現するのは難しい。

「私が医師になった頃は、白衣を着ていても看護師さんと同様扱われる時代だったんです。でもいまは、若い世代では3割が女性医師という時代。キャリアアップに大切な時期に、結婚出産が重なりやすい女性医師への支援はますます重要な課題となっています」

故郷に貢献したいという想い

武信氏には医師になって、勤務医生活を送るなか、「いずれは開業し、故郷に貢献したい」という想いがあった。

武信氏は広島大学病院の眼科に勤務した後、さらなる研鑽を求めて外に出た。眼科医が10名以上在籍する大阪の眼科専門病院に行き、年間200例以上にも及ぶ手術を経験した。そして平成10年、生まれ育ったこの地で武信眼科を開業する。

「開業当初は本当に大変でした。スツップの採用や労務管理など、慣れない事がいっぱい。でもここは周辺に眼科がなかった地域で、眼科にかかるには倉吉

武信眼科

〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿1624-1

周辺には田園が広がり、海岸沿いには全高103.5mの風力発電風車が並ぶのどかな地。倉吉市から車で20分ほどの東伯郡北栄町にある武信眼科は、この地になくはない眼科医院として住民からの信頼は厚く、日々、多くの患者さんが訪れる。

取材当日も多くの患者さんが訪れていたため13時からの取材開始が14時近くに。時間が押してしまい、何度も頭を下げる武信院長とスタッフの方の細やかな気配りに、取材陣の心は温かくなった。



鳥取で輝く女性医師

市まで行かなければならなかった。開業して地域の人たちから『ありがたい』と言言葉がたくさん聞いて、励みになりましたね。ああ、故郷の助けになっっているんだなって」

武信氏は、平成25年6月から鳥取県医師会理事の2期目を迎え、女性医師対策の主担当に再就任。鳥取県の女性医師支援にも取り組んでいる。

「女性医師が医師を続けたいから出産を諦める、出産したいから医師を諦める、それはあつてはならないこと。また離職することで、その分、他の医師に負担がかかり、医療の質の低下にもつながり兼ねない。これは女性医師だけの問題ではないんです」

お互いの特性を尊重し 思いやり、協力し合う

鳥取県では鳥取大学医学部附属病院に、仕事と生活の両立を支援するワーク・ライフ・バランス支援センターが開設。また、休職中の医師がブランクを心配することなく復職する目的で、シ

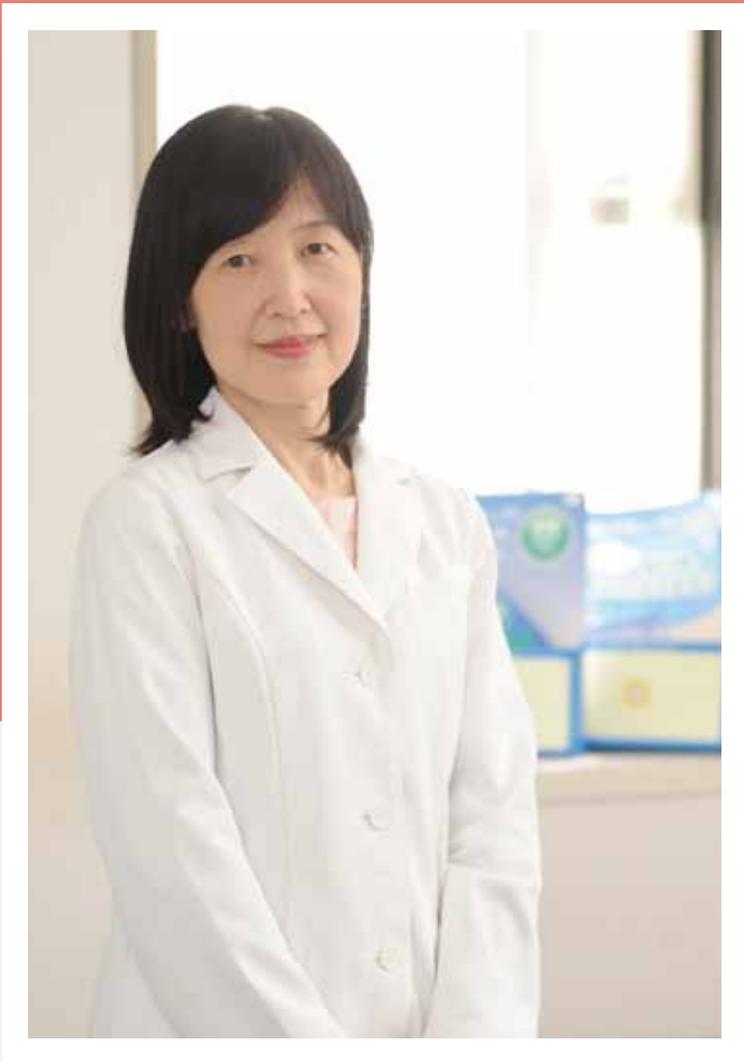
ミュレーショントレーニングが年に数回実施されている。「県と鳥取大学医学部附属病院との連携で支援が進められていますが、まだ十分にその活動が周知されていない面もあります。これからの広報活動も重要な使命ですね」。日本医師会女性医師バンクでも、求人数が約4千に対して、求職者が700弱という登録件数しかなく、登録件数をもっと増えれば再就職事業が進むと期待されている。

「女性医師が育児を通して、子供と深く関わる過程は人生の嬉しい一大イベントです。それと同時に、医師として生涯、社会に貢献していくことも大事なことです。そのためには環境の整備はもちろん、男性女性医

師、それぞれがお互いの特性を尊重し、思いやり、協力し合うことが大切だと思います」

「みんなちがって、みんないい。女性医師としての個性を生かして、貢献したい」

武信氏は医師として日々患者さんと向き合い、鳥取の女性医師支援に力を注ぐ。



武信眼科 院長
鳥取県医師会理事(女性医師対策 主担当)

武信 順子 たけのぶ・じゅんこ

- 1982年 広島大学医学部 卒業
広島大学医学部 眼科学
- 1986年 馬場眼科 (広島県)
- 1993年 西眼科病院 (大阪府)
- 1998年 武信眼科 開業 (鳥取県)
- 2012年 鳥取県医師会理事 (女性医師対策 主担当)



Our Style

鳥取の病院から

医療法人十字会 野島病院

今回紹介する病院は、鳥取県中部の地域医療拠点病院である「医療法人十字会 野島病院」。2017年に創立100周年を迎える歴史をもつ、地域住民から愛されている病院だ。総院長の野島丈夫氏のモットーは“心のこもった思いやりのある温かい医療”。野島病院はたくさんの思いやりに満ちていた。

医療、看護、介護を
トータルに提供し
地域包括ケアを推進

大正6年に開設し、2017年に創立100周年を迎える野島病院には、地域住民が気軽に訪れることのできる近さがある。気軽なて言う、なんだか病院に似つかわしくない言葉だが、これは非常に大切なことである。地域住民が気軽に来られるということは、地域と病院が強い信頼関係で結ばれている証なのだから。

「お金がなくてもいいですという、いわゆる、赤ひげの頃からの病院なんです。私が小学生のときに、天才少女バイオリニストの鰐淵晴子さんが来てね。たくさんの方が押し



寄せて診察がストップしたこともあったんです」。3代目となる総院長の野島丈夫氏はそういつて昔を懐かしんだ。

野島病院はここ10年の間に、老健、訪問看護・介護ステーション、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所などを次々と開設。保健・医療・福祉の統合による包括機能で地域を大きく支えてきた。

「現在、地域包括システム」という言葉が大きく謳われていますが、当院は10年以上前から、医療・看護・介護をトータルに提供するシステムを法人内で構築し、連携強化に力を入れてきたんです」。さらに診療機能としては、

あらゆる救急医療に対応できる体制を整え、迅速で確実な検査・治療を実現する320列のCTも導入した。これは鳥取県で第一号であり、患者さんにとって、何が最善かを追求する野島病院の強い姿勢が現れている。そして野島病院のもう一つの特徴と言えるのが、どの医療ステージにおいても充実したリハビリテーションを提供できる体制だ。

「うちは理学療法士、作業療法

全人間的復権 を実現する リハビリテーションを

士、言語聴覚士のスタッフ50名体制で充実したリハビリを提供しています。めざすのは、全人間的復権を実現するリハビリを通した患者さんの自立なんです」。だからなのか、院内が明るく活気に満ちているように感じる。

「リハビリでは、最初ほとんどの患者さんが下を向いて歩いてしまいう。だから、胸を張って威張って歩いてくださいというわけ。それだけで歩き方に元気が出てくる。それが明るい環境も作るんです」

取材後に、野島氏は「綺麗な空を見て欲しい」といって取材陣をある場所に案内してくれた。空のなかに外に出る気配はない。案内された

のは窓のない連続血管撮影装置のある放射線検査室だった。「うー」と取材陣から感動の声があがる。天井と壁には美しい空が広がっていた。

「患者さんに少しでもリラックスしてもらおうと思っただけ」と、野島氏は優しく微笑む。野島氏のモットーは、心のこもった思いやりのある温かい医療の提供。その想いは、こうしたカタチでも現れている。

野島病院は地域にとっても愛されている病院だ。野島氏に医療人として大切な姿勢を聞いて、返ってきた言葉がそれを何よりも証明しているように思う。

「医療に携わる人は、優しい人でなければならない」



医療法人十字会 野島病院の
見学などのお問い合わせ先

医療法人十字会 野島病院

〒682-0863

鳥取県倉吉市瀬崎町2714-1

TEL: 0858-22-6231

FAX: 0858-22-6843

URL: <http://nojima-hospital.jp/>

総務課 人事担当: 森下



鳥取の研修医たち

鳥取大学 医学部附属病院

鳥取大学医学部附属病院の指導医である、第一内科の山田健作先生、形成外科の陶山淑子先生、そして研修医である櫻木哲詩先生、荒木隆之先生の座談会を開催。

それぞれの視点から、鳥取大学医学部附属病院での研修や鳥取の魅力について楽しく語っていただきました。

大学病院でありながら
市中病院の役割も担う

(研修医)荒木先生：僕は北海道出身で大学は岩手医大なんです。研修病院は行ったことのない西日本の地方病院でと思いネットの情報を見ながら、鳥取に決めました。中国地方の医療の中心として実績もありますし、鳥取という地が魅力的だったんですね。

山田先生：偶然にも僕は荒木くん



と同じ若手医大出身なんです。荒木くんの指導医になるまでお互いそのことを知らなくてね。

(研修医) 櫻木先生…僕は学生のと
きから形成外科に入局することを
決めていました。研修は県外にと
思っていました。鳥大の形成外科
の手術をみて、やはりここで研修し
たいと思ったんです。今、鳥大の形成
外科は、中山准教授の再生医療プロ
ジェクトが発表されたり、かなり勢
いのある医局なんです。

陶山先生…櫻木くんは学生するとき
から形成外科の医局に入局してい
たので、もう医員のような扱いをし
ていましたね。とても熱い人で、形成

外科の中心的な役割になって欲しい
と期待しています。

(研修医) 櫻木先生…プレッシャーで
すね。

山田先生…鳥大の魅力は、大病院
でありながら市中病院のような役
割も果たしているということ。開業
医さんの紹介や、患者さんの駆け込
みも、基本的に全て受け入れる。そ
こが誇りでもあるよね。そのなかで、
色んなことを吸収できるというのは
凄く大きなことだと思います。

(研修医) 荒木先生…大病院は、
高度医療に触れることは多いが、
コモンディーズが少ない」と一般
には思われています。でも、山田先生
が仰ったように鳥大は市中病院のよ
うな役割もあり、コモンディーズ
もちゃんと数を診ることができると
ですよ。

陶山先生…それに基礎研究もでき
ますしね。臨床でも、再生治療をし
ているときに再生医療学教室と連
携して自分たちだけではできないこ
とができたり。臨床と研究との連携
によって、できることが広がっていく

面白さがあります。

(研修医) 櫻木先生…診療科も豊富
にあり、研修でローテートしていなく
ても、患者さんの紹介などで色んな
科と関わることが出来る。それに研
修プログラムの自由選択では、たす
きがけ研修で外に出させていただけ
るなど、広く経験ができますよね。

多彩な医療、考え方が学べ 人も土地も環境もいい

山田先生…僕がいる第一内科は循環
器と内分泌代謝が専門ですが、荒木
くんと一緒に肝性脳症の患者さんを
診るなど専門にとられない総合的
な指導をしています。あと、プレゼン
テーション力が身につきますよね。
そこは僕が、外から鳥大に帰ってき
て本当にダメだなあと実感したこ
ろ。だから、いま改めて勉強してい
る最中です。

(研修医) 荒木先生…鳥大は、10年
目くらいの一番油が乗っている先生
方が研修医の指導にしていただけ
る。みなさん医療に対する自分なり
の一言をお持ちで、教科書的な教

えではなく、考え方を聞けるのは
貴重な経験です。

(研修医) 櫻木先生…それに鳥大は最
先端で一流の医療を提供しています。そ
れを研修医の最初の2年間で目にす
る。それも貴重な経験です。自分が医療
設備の整っていないところに行つたと
き、一流を知っているからこそ、そこに
近づく努力ができると思っただけです。

陶山先生…学生のうちに進みたい科
を決めておくと、初期研修のローテ
ーのときに目指す科に役立つことを
意識して学んでいける。初期研修も大
きく意味のあるものになると思いま
すね。ちなみに形成外科では、医師とし



Succeed

鳥取の研修医たち



て修得しておきたい、怪我をした人の初期処置対応がしっかり学べます。

山田先生：研修医は会社でいったら新入社員なんです。だから研修医時代は社会人としてのマナーもしっかり身に付けて欲しいです。挨拶であったり、医師としての基本姿勢ですよ。それが今後、医師として成長する土台となっていきます。そういった基本姿勢は、研修医の時期にしっかり身につけること。後から身に付けるのは絶対に無理

なんですよ。

(研修医) 荒木先生：山田先生をはじめ、鳥大の指導医の先生方は非常に熱心なんです。鳥大に来て本当に良かったなと感じています。それに鳥取という土地や人から感じられる、柔らかさ、もいいんですよ。

山田先生：僕は高校を出てからずっと県外だった。でも帰ってきたとき、人も環境もいくなって感動した。病棟からみる中海の夕焼けとかすごくキレイだよ。

(研修医) 荒木先生：病院の裏にある米子城山からの景色も素晴らしいですよ。たまに休みの日に行ってリフレッシュしています。

(研修医) 櫻木先生：僕も、夜仕事が遅くなったときなんか、天体望遠鏡をもつて山に行くこともあるんですよ。

陶山先生：仕事帰りにみんなで飲みに行ったりもしてるよね。楽しくやっています。櫻木くんはプライベートの話をしてくれたりとか。指導医と研修医の仲は本当にいいよね。



鳥取大学医学部附属病院

697病床と約1,600人のスタッフにより、東は鳥取県東部、西は島根県東部、南は岡山県北部までの広範囲の医療を支える。個人の希望を優先した自由選択プログラムや、救命救急センターでの1~3次救急の診療経験、山村や離島での地域医療体験、短期留学研修などがある。さらに、専任の研修センター教員(准教授)や事務職員の配置、最新OSを搭載したパソコンやiPadの貸与、研修医専用のリフレッシュルーム・当直室が完備されており環境面もしっかり配慮している。



研修1年目 荒木隆之 (あらき・たかゆき)

●出身 北海道 ●出身大学 岩手医科大学医学部 ●趣味 読書・将棋・落語



研修2年目 櫻木哲詩 (さくらぎ・てつし)

●出身 鳥取県 ●出身大学 鳥取大学医学部 ●趣味 ドライブ



指導医 山田健作 (やまだ・けんさく)

●出身 鳥取県 ●出身大学 岩手医科大学医学部 ●所属診療科 第一内科診療科群

2004年 山陰労災病院 (初期研修医)
2006年 島根県立中央病院 循環器内科
2009年 鳥取大学医学部病態情報内科学講座 医員



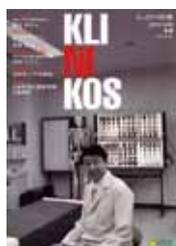
指導医 陶山淑子 (すやま・よしこ)

●出身 鳥取県 ●出身大学 鳥取大学医学部 ●所属診療科 形成外科

2004年 名古屋大学医学部附属病院 (初期研修)
2006年 鳥取大学医学部附属病院 形成外科 医員
2008年 鳥取大学医学部附属病院 形成外科 助教

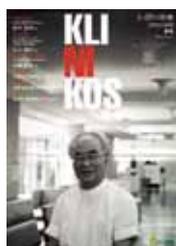
KLINIKOS BACK NUMBER

バックナンバー



トップインタビュー
鳥取大学医学部附属病院長
豊島 良太氏
この人に注目
鳥取県立総合療育センター 療育支援シニアディレクター
北原 信氏
鳥取で活躍する女性医師
鳥取大学医学部皮膚病医学講師
山田 七子氏
来たれ研修医!
鳥取県立中央病院
病院探訪
日南町国民健康保険日南病院

2010年冬号



トップインタビュー
鳥取県立厚生病院病院長
前田 迪郎氏
この人に注目
社会医療法人仁厚会
藤井政雄記念病院副院長・緩和ケア科病棟長
足立 誠司氏
鳥取で活躍する女性医師
鳥取赤十字病院眼科副部長
高橋 芳香氏
来たれ研修医!
鳥取生協病院
病院探訪
日野病院組合日野病院

2010年秋号



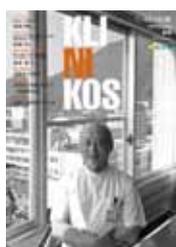
トップインタビュー
鳥取県立中央病院長
武田 倬氏
この人に注目
独立行政法人国立病院機構 米子医療センター院長
濱副 隆一氏
鳥取で活躍する女性医師
鳥取大学医学部附属病院 内分沁代内科 (第一内科)
大倉 裕子氏
来たれ研修医!
鳥取大学医学部附属病院
病院探訪
智頭町国民健康保険智頭病院

2010年春号



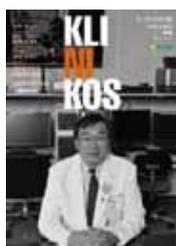
トップインタビュー
独立行政法人労働者健康福祉機構
山陰労災病院長
石部 裕一氏
この人に注目
自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児科研修医
大谷 英之氏
鳥取で活躍する女性医師
鳥取県立厚生病院外科
田中 裕子氏
来たれ研修医!
日本赤十字社鳥取赤十字病院
病院探訪
南部町国民健康保険西伯病院

2011年冬号



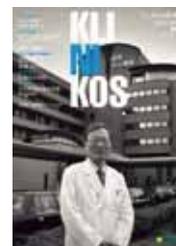
トップインタビュー
鳥取赤十字病院院長
福島 明氏
この人に注目
鳥取大学医学部生殖機能医学教授 低侵襲外科センター長
原田 省氏
鳥取で活躍する女性医師
独立行政法人国立病院機構
米子医療センター 耳鼻咽喉科
山本 祐子氏
来たれ研修医!
鳥取市立病院
病院探訪
鳥取県中部医師会立三朝温泉病院

2011年秋号



トップインタビュー
鳥取大学医学部附属病院長
北野 博也氏
この人に注目
鳥取県立中央病院麻酔科
乗本 志考氏
鳥取で活躍する女性医師
湯川 喜美氏
病院探訪
鳥取県済生会境港総合病院
研修医に聞く
鳥取県立厚生病院

2012年秋号



トップインタビュー
鳥取市立病院院長
田中 紀章氏
この人に注目
鳥取大学大学院医学系研究科教授/
鳥取大学薬色体工学研究センター センター長
押村 光雄氏
鳥取で活躍する女性医師
智頭町国民健康保険智頭病院内科
渡邊 ありさ氏
来たれ研修医!
山陰労災病院
病院探訪
岩美町国民健康保険岩美病院

2010年夏号



トップインタビュー
鳥取県立総合療育センター院長
鱧 俊朗氏
この人に注目
本間 正人氏
鳥取で活躍する女性医師
鳥取生協病院内科医師
平田 雅子氏
来たれ研修医!
鳥取県立厚生病院
病院探訪
江府町国民健康保険江尾診療所

2011年春号



トップインタビュー
鳥取生協病院院長
齋藤 基氏
この人に注目
鳥取大学医学部地域医療学講座教授
谷口 晋一氏
学会ルポ
第4回鳥取県国保地域医療学会
来たれ研修医!
国立病院機構米子医療センター

2012年春号



トップインタビュー
鳥取県立中央病院長
日野 理彦氏
この人に注目
鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科
國本 泰臣氏
鳥取で活躍する女性医師
鳥取大学医学部附属病院 女性診療科
数田 結子氏
病院探訪
国立病院機構鳥取医療センター
研修医に聞く
鳥取市立病院

2013年春号

KLINIKOS

編集後記

東京から鳥取空港まで、飛行機で約1時間。あっという間のフライトだった。到着して間もなく、その土地に、その空に一気に親和が広がった。鳥取の地には、大きな優しさがあった。それは取材した医師たちも同じだった。医師たちの目には、病気だけではなく、しっかりと“人間”を見つめ続けてきた優しい燦きがあった。取材時の会話が時間を忘れるほどに自然と弾む。こういうのも変だが、「患者になるなら鳥取で」と感じたほどだ。取材最終日の帰り、米子空港に向かう車中で、取材陣の誰かがそっと「住みたいなあ」と呟いた。

STAFF CREDIT

発行 鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課
(<http://www.pref.tottori.lg.jp>)

編集制作 【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社
(<http://www.medical-principle.co.jp>)

制作協力 株式会社メディア出版

アートディレクター 勝又シゲカズ

ライター 田口素行

カメラマン 小山英樹

地域医療に関心のある方へ

鳥取県医師登録・派遣システム（ローテートコース）
複数の公立病院等をローテートしながら、鳥取の医療の現場を経験できます。
（その間に研修を行うことができます）

子育て等で現場を離れ、復職を考えている方へ

鳥取県医師登録・派遣システム（子育て離職医師等復帰支援コース）
●鳥取大学医学部附属病院ワークライフバランス支援センターと協力し、
現場復帰のための研修を県立病院、鳥大附属病院等で行います。
●研修後の復職についても、仕事と家庭の両立に配慮した医療機関を紹介します。

キャリア形成を考えている方へ

鳥取県専門研修医師支援事業
県外の医療機関に県職員として研修派遣します。

鳥取県医師海外留学資金貸付制度
海外留学のための資金を貸与します。

鳥取県内の求人情報を探している方へ

県内医療機関の求人情報の提供、あっせん、紹介を行います。

見学を希望される方へ

●県外の方で病院見学を希望される場合は、旅費を支給します。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/iryouseisaku/>

鳥取県 医師確保

検索

鳥取県は医師のキャリア形成、
子育て後の復職などについて積極的に
支援しています。

鳥取県で
働いてみませんか。

鳥取県で 初期臨床研修を しませんか。

鳥取県臨床研修指定病院協議会の事業

- 研修医の受講する救急講習（ACLS,BLS,ICLS）受講料を助成します。
- 年1回各病院の研修医が集まる研修医交流会を開催します。
- 研修医を対象とした著名講師による臨床研修医セミナーを開催します。
- 鳥取県東部4病院（県立中央病院、鳥取市立病院、鳥取赤十字病院、鳥取生協病院）にマッチングした研修医は、様々な特色を持つ4病院で希望に応じた研修を行うことができます。

鳥取県は県と県内臨床研修病院が協議
会を立ち上げ、研修医のための様々な取
り組みを行っています。また、医学生が県
内臨床研修病院を見学する場合には旅
費を支給しています。

鳥取県臨床研修指定病院協議会のホームページをぜひご覧ください

鳥取県の臨床研修病院の魅
力を知っていただくため、ホー
ムページを作成しています。
各病院の最新情報、プロモー
ションビデオなど魅力満載で
すので、ぜひご覧ください。



<http://www.tori-rinsyou.jp/index.php>

鳥取県 臨床研修

検索